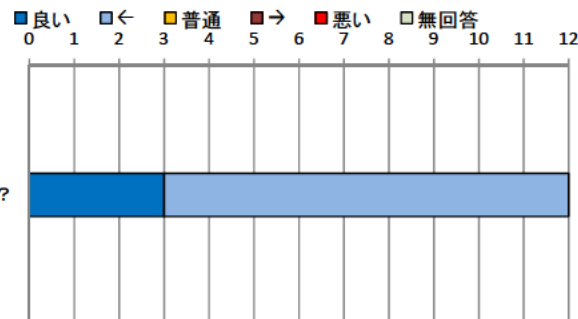


創薬プロジェクト演習 アンケート結果

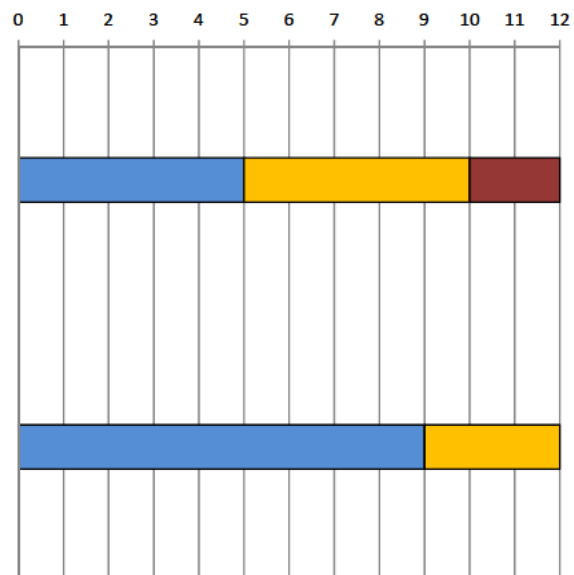
受講者15名 (回収12名)

<導入講義>



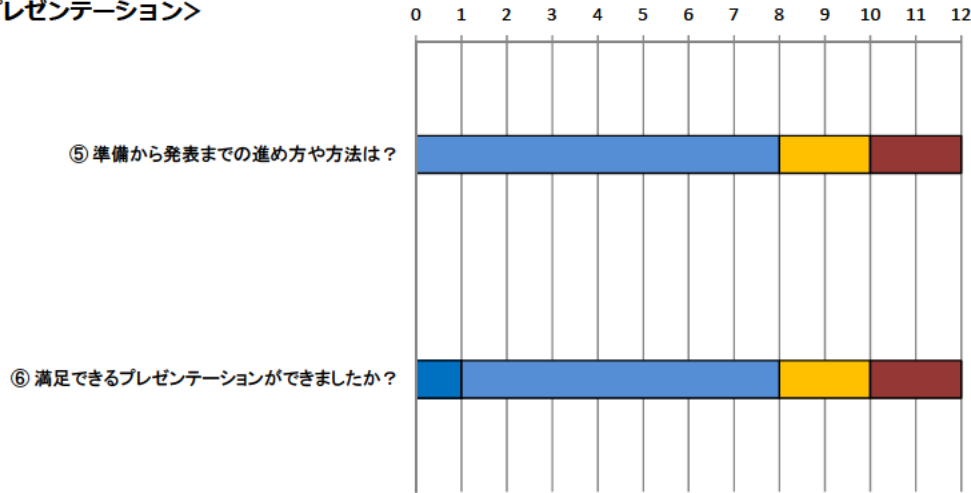
- 治療しようとしている病気に関する論文だけでなく、似たような他の病気の論文のデータも根拠にしているのが参考になった。
- 有名ではない方の説を取り上げたこと。構造をいじったこと。
- 先輩が難しい説明をすらすらと話している姿が印象に残った。
- スライドで図が多く使われており、見やすかった。
- 論文から根拠を導き、化合物の構造を論理的に決定していた点
- スライドの構成の方法。発表方法が全く分からなかったため、その点に特に注目した。
- 創薬への道筋が参考になった。
- 順序立ててあり、わかりやすかったです。 色彩がキレイだった。

<企画会議>



- 今回私たちはそうしましたが、テーマにする疾患は一番最初の会議で1つに決めてしまうべきだと思う。
- まずはじめに全体で疾患を決めてしまった方が調べる効率がよい。

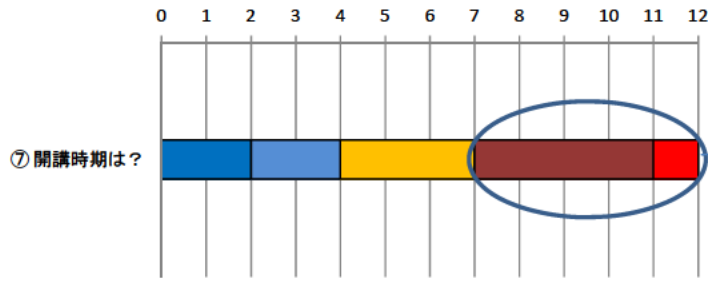
<最終プレゼンテーション>



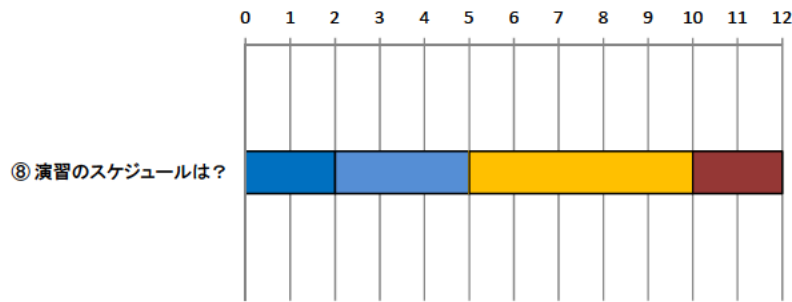
- 最終プレゼンテーションの場所を事前に知りたかった。もう少し全員が集まって話し合うべきだった。
- また、教授の方々に質問しに行くのはあと一週間早くしておくべきだった。
- 4月第3週から企画会議があれば、プレゼンテーションにもう少し余裕が持てたかなと思った。

- 事前に発見した改善点などを盛り込んでプレゼンが出来た。
- 緊張して聞き取りやすい話し方が出来たかはわからないが、質問も予想したりアドバイスをもらいながら答えを用意していたので、極力答えられた。
- 自分たちでもう少し時間をとって調べればよかったと思う部分があった。
- ILGの活性を高める方法など、答えがわからないではなく、ある程度の方向性を決めるべきだった。
- 教授の方々に予想していない質問も来たので、シミュレーションが足りなかったと思う。

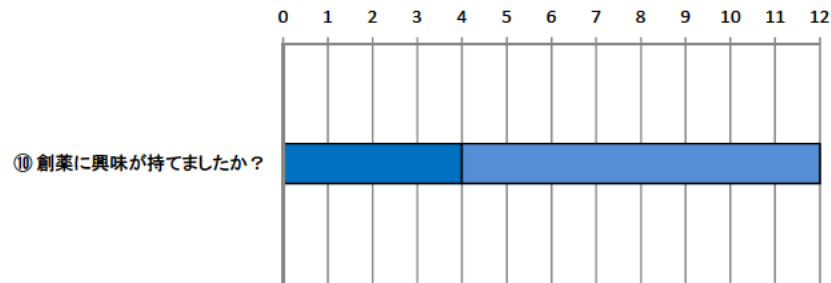
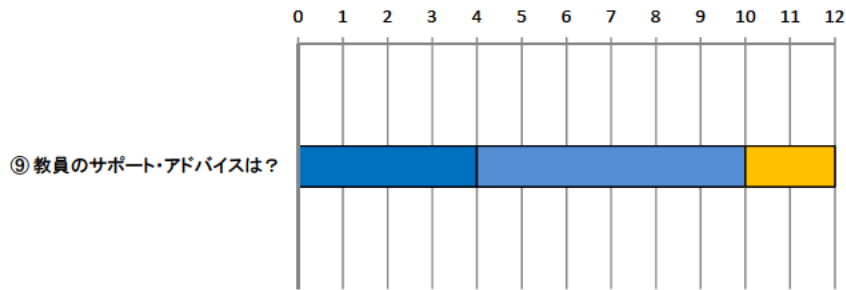
<全体を通して>



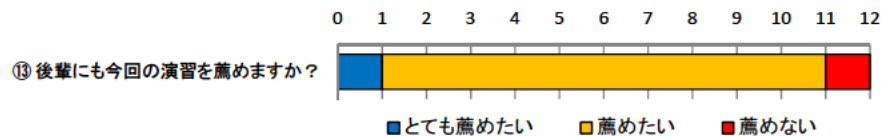
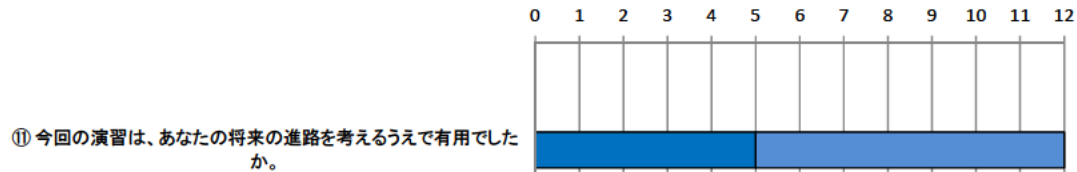
4月頃に始めた方がよい。
 テストが被るので、4月頃がよかったです。
 中間テストなどと被るのでよくない。せめて2週間ほど早めにすべてのスケジュールをすべきだったと思った。
 5月中旬に中間テストがあるのでそこを外せば金曜以外での話し合いも積極的に行える。
 もう一週早くすれば最終プレゼンに余裕ができると感じた。



- こまごまとしたことを調べてからプレゼン資料を作っていくまでの分があと1回ほどあったらよかったと思った。
- 全体的にもう一週ほしい。



- 自分の知識を活かしながらアイデアを絞っていく点
- 化合物をどのように変化させるとどの部位で効果良く効くのかなどを考える点
- 1つの病気にも治療するための標的やプロセスがたくさんあり、創薬に対する多くの可能性が実感できた。
- 化合物を考えるだけでなく、出来た化合物を標的部位に運ぶかや人に無害なのかなどの確認試験など創薬を今までと違う見方が出来た。
- 考えれば考えるだけ、色々な可能性を持った化合物をみんなで考えだしていく過程が一番面白く、興味を持てた。
- 今回は実際に実験できなかったため、様々な点が不明のままだったが、実際に実験を行うことが出来るならばより良いものを提案できそうと感じた。



⑭自由記述

(感想)

テーマにする疾患の選び方は今年のように治療満足度が低い疾患全体から選べる方が良いと思う。
調査対象の疾患の自由度が大きかったので調べやすかった。
今回のように病気の範囲を狭くしなことは、思いもよらない病気を対象にできるためおもしろいと思う。
創薬プロジェクトに参加して、創薬するにはたくさんの知識が必要だということが分かって良かった。
準備が想像以上に大変だったが、先生方のサポートもあって発表までたどりつけて良かった。グループでたくさん意見を出し合い、試行錯誤しながら、自分達で新たな化合物を発案できたことが嬉しかったし感動した。少しでも、創薬ってこんな感じなのかなという感覚が味わえたのでよい経験になったと思う。
自分たちで考え、進めていくことはとても力になったと思う。
負けてしまいましたが、将来どのように創薬について考え、どう行動していくかに関してとても参考になりました。協力していただいた先生方、ありがとうございました。
進路に迷っていたので、その指針として、また、自分の可能性を試すという意味でも非常に有意義な演習だった。開講時期が中間テストなどと被り、集中して演習に取り組みにくかった点は残念だったが、企画は本当によかったので、これからも続けてほしい。
今までぼんやりしていたイメージがはっきりして、自分ができること、出来ないことがよく分かって勉強になった。
創薬プロジェクトは将来とても役立つものだと思います。この演習の良かった点は様々な先生方、先輩方とお話できたことだと思います。
様々な先生とお話してきたことが良かったです。

(要望)

ある程度、疾患を絞った方が疾患を1つに決めた時全員がある程度知識のある状態でスタートできると思う。
両チームの先生の介入度だったりすすめ方にもう少し基準があった方が学生にとって平等だと感じます。
このプロジェクトの前に、担当教員のスケジュール（いつなら質問しに行けるか、アボが必要か）などを教えていただけるともっとやりやすいと思った。